

Tokyo
Steel-rib
Fabricating
Association

Report

東構協

<http://www.tsfa.jp/>

2017 年 (平成 29 年)

新春号

[第 26 号]

発行 東京鉄構工業協同組合
〒 104 東京都中央区八丁堀 3-9-5 KSビル6階
- 0032 TEL : 03 (5566) 1595
FAX : 03 (5566) 1597

写真 Ⅱ 金龍山浅草寺 雷門



「熟して待つ」

理事長 飯田 歳樹

東構協組合員・東構協協力会社のみなさま、新年あけましておめでとうございます。

昨年の景気はわが国の輸出・生産面において、新興国経済の減速に伴う影響などが見られたものの、緩やかな回復を続けてまいりました。輸出や生産は足もとで弱めのうごきが見られておりますが、公共投資・設備投資は増加していると言われております。雇用・所得環境の着実な改善を背景に底堅く推移しております。

一方、九州では熊本の地震被災に見舞われ、その地域での操業再開や挽回生産など早期に解決していかねばなりません。一刻も早い復興を期待しております。

また、世の中の動向として「SMAP」の解散、ポケモン GO! 東京都知事選、リオ・オリンピック、築地の豊洲移転「盛り土」問題で待った! ピコ太郎の「PPAP」大ヒットなどが昨年の出来事でしょうか。それともう一つ秋が短かったですね。

今年には、ドナルド・トランプ氏がアメリカ合衆国の45代大統領に就任いたします。何かとお騒がせな方ですが、日本に与える影響は少なくありません。「TPP」にしても「北方領土返還」問題にしても必ずしも良い方向で進むとは考えられません。いずれにしても、アメリカがくしゃみをして日本が風邪をひくのは御免被りたいと願うばかりです。

さて、今年は何年…

酉年の本来の由来は「果実が極限ま

で熟した状態・酒熟して気の漏れる状態」を言うのだそうですが、一般的には酉は「取り込むにつながる」と言われ「商売繁盛」につながると考えられております。まさしく物事が頂点まで極まった状態です。

今年は「実のある一年」にしたいと考えておられる方は多いと思います。

仕事の的には、2020年の東京オリンピック・パラリンピック特需等の影響により、鉄骨の生産量は昨年を上回ることは確実です。生産体制・品質管理・工程管理を確実に重視して、安全の確保それにコスト管理を「実のある一年と言わず二年三年」と続くよう努力を重ねていきましょう。

また、全国の支部との交流会。各県との対話、交流をもちお互いを理解して、直面している業界の問題、各県との格差、繁忙期を迎え相互間のWin-Win等を、昨年同様に腹を割って話し合いを進めて行き、組合・協力会社と一緒に頑張っていきたいと考えていきます。今年もどうかよろしく願います。(飯田製作所社長)

組合理事役員

年頭のあいさつ

「秘湯の旅」



副理事長

総務・広報委員長

池田 英敏

昨年10月末に高校時代の部活の先輩達と、6人で東北方面に2泊3日の小旅行を決行する。それぞれが年金暮らしで多少時間を持て余す割には、自ら旅行の企画をするのは億劫らしい。

先輩の一人に、吉永小百合がPRしている、「大人の休日クラブ」に入会すると運賃が大幅に割引になるらしいという話を聞き、窓口に応じ込みに行き、早速会員となった。ここで温泉巡りを企画し、日程の調整に入る。行き先は、乳頭温泉郷と決まり、時刻表と観光地を選定しながら（もっとも窓口の女性に従っただけだが）予算、アクセスを相談する。

旅行当日各地から東京駅に集合し、青森行きの新幹線に乗車し、途中盛岡駅で、秋田行きの車両に分離され、田沢湖駅をめざした。

田沢湖駅から時刻表に合わせた路線バスに乗り、乳頭温泉郷行きの指定された待合場所で送迎バスに乗り換えた。以前来た風景が頭の中に甦る。車中の左右は、黄色く紅葉したブナ林、真っ赤に色づいた紅葉、広葉樹の葉で山が燃えているようだ。

硫黄の匂いと白い湯けむりが見え始めてくる。以前きた頃とまったく変わっていない。水車と大きな丸太の門構え、ここが山の谷間の秘湯、乳頭温泉郷である。女将が、我々を出迎えてくれ、泊まる所は、離れの一棟で、2室を3人ずつに割り振り、早速、浴

衣に着替え、砂利道をサンダルで露天風呂に向う。露天風呂は多少ぬるめだが、日頃の疲れを癒し、学生時代の思い出に浸かるのは、十分である。当時の鬼のような先輩達も、人生の荒波を乗り越えた年輪みみたいな額のしわが、物語っているように、今や好好爺である。夕食では、ランプの燈火が囲炉裏を薄暗く照らし、油の匂いが部屋を充満する。それでも、炭火で焼いた岩魚と、山芋をダンゴ状にした味噌仕込みの茸の汁が、食欲をそそる。この素朴な味が地酒にととも合う。胡坐を開いた先輩に、盃にさしつ、さされつつ、思い出話に花が咲いたのは言うまでもない。

10代での勝利への燃え上がった青春は、70代、80代の枯れた人生に今もその片隅に残している様子がうかがえる。また元気うちに、皆と旅に行こうと心に決めた秘湯の旅でした。12月の秩父宮競技場での再会を約束することを忘れなかった。

(池田鉄工会長)

需要の盛り上がりの中で



副理事長

運営委員長

武田 忠義

地方から所用で来られる同業者の方が、開口一番、「東京はいいですね」という。次に出る言葉は、決まって「あちこちに建っているクレーンの数が、私たちのところと断トツに違う」である。

あの2008年に起きたリーマン・ショック以降、多少の山谷があっても東京の需要は、極端に落ち込んではいない。そして東京五輪の誘致やリニア新幹線の着工が決まってからは、明らかに雰囲気が変わってきた。JR山手線や地下鉄に乗っても主要な駅では改

築工事が続いている。その駅前には、超高層ビルを伴う大型再開発事業が計画され、具体化している物件も少なくない。

街を歩いても丸ノ内や八重洲、日本橋、銀座、虎ノ門、渋谷の界限でも開発ラッシュが続いている。少し郊外に足を運ぶと主要幹線沿いには、大型の店舗や物流倉庫などの建設現場に遭遇することも珍しくない。ホテルも例外ではなく、なかには超高層ビルに匹敵する鉄骨使用量のホテル案件もある。

今年から来年にかけて、さらに新規案件の着工が相次ぐという。ゼネコンも設計事務所も、その対応に追われている。工期・工程ずれで期待外れに終わることが度々生じたが、今年は東京五輪開幕を区切りとして、工程を組んでいる案件も少なくない。それらが一斉に動き出す。また、五輪閉幕後も品川、常盤橋、六本木、渋谷などで開発ラッシュは続く予定だ。これが現実化すれば、まさに建設バブルになる。

忘れてはならない重要な案件がある。過去、何回かこうした波が押し寄せたが、引潮になった途端に競合で互いの首を締め合う。それが業界の常である。今一度、歴史を検証して真の相場形成を目指す絶好の機会であることを強調したい。

(叶産業会長)

マイブーム2016



副理事長

教育・技術委員長

吉岡 晋吾

最近のマイブームは、銭湯に行くことです。家の周りには、4、5件の銭湯があり、週に2、3回は通っています。東京の下町で育った私は、子供のころは毎日親か近所の友達と銭湯にいました。

記憶にある中で小学生が10円だっ

た記憶があります。現在は大人が 430 円、子供は 150 円。当時は、番台があってお風呂やの主人や奥さんが座っていましたが、現在の銭湯には番台がないところが多く、外に受付があるタイプがほとんどで少しさびしいような気がします。

洗い場の中も現在は、ジェットマッサージ、電気風呂、薬草湯、水風呂、露天風呂、サウナ風呂（使用料金は別途）などがあり癒されます。

客層は多種多様で、子供連れの父親、現場帰りの職人さん、サラリーマン、学生、老人、背中に綺麗な絵が描いてある特殊商売の人達、最近はおもたまたまに、週末に息子と銭湯に言って背中を洗いあってコミュニケーションをとっています。

しかしながら、今の若い人は銭湯を知らない人がいるみたいで、水着を履いて入っていいですかとか、大きなバスタオルを巻いて入ってくる人がいるようで、また、銭湯業界も深刻な問題をかかえていて、後継ぎがいなくてやめてしまうところや、さらに最近では、駅前にできたスポーツクラブ（お風呂付き）の影響で銭湯離れもさらに深刻になってきて、光熱費を考えると経営難になっているところが多いようです。

少しでも売り上げに協力できるように銭湯にせっせと通うことしかできな

いですが、その中で知り合った人も多く、会うと挨拶をしたり、たわいもない話をしたりするのが楽しくまさに裸の付き合い。このような、日本特有の文化をなくさないために、これからもせっせと通いたいと思います。

私は、近い将来、孫を連れて銭湯に行くのがささやかな夢です。

がんばれ銭湯。（吉岡工業社長）

鉄骨単価について



理事
青年経営者委員会幹事長
松田 一郎

人材不足なのに単価が思うように上がらないのは何故か？需要が多ければ価格は上がる。通常の市場ではこれが自然だが、建築鉄骨ではさほどでもない。建築全体が不況ならある程度仕方がないが、ゼネコンは過去最高の利益を出している。

それでは鉄骨以外の建築下請けではどうか？特に客観的データは無いが、東京で建築下請け業を営む近隣の友人たちの話ではなかなか良い環境の様子。さらに現場溶接工の単価はかなりの上昇と聞く。なんだか鉄骨ファブだけが割りを食っていないかという懸念

を私は持っている。

もしそれが事実だとすれば、鉄骨業界には価格を上げづらい特殊な要因があるのか。最近だけでなく、このテーマはもう何年もいろいろと仮説立てて考えてきた。思い当たることはいくつかあるのだがなかなか根本的な原因を特定できない。複数の要因が絡んでいるのかもしれない。

・ファブは価格交渉力が弱い。取引条件改善や契約書締結にはあまり熱心でない。追加工事がサービスになるかどうかで利益が決まるなどおかしな話だ。

・地方が（商社が）都心の物件に集中する。過当競争の状況になりやすい。プレーヤーの数が限られれば、相手の手も少しは読めるのだろう。

鉄骨単価が上がると建築計画の段階から RC 造になってしまい需要を自動的に抑制してしまう。

競争相手は鉄骨ファブだけではない。鉄骨業界としては高品質をアピールしているものの、不動産市場では RC 造に資産価値で負けている。

私は前年度まで関東ブロックや全青会の役員をさせてもらい、全国各地のファブからいろいろな本音の話を聞いた。そのお陰かこの答えに少し近づいてきた気がする。今後も全国の仲間と交流してこの問題について考えていきたい。（松田鋼業専務）

Tokyo Bay3

東京湾岸1都2県鉄構組合同戦略会議

● 4月13日、東京鉄構工業協同組合会議室で会合を開き、東京から飯田歳樹理事長と吉岡晋吾副理事長、千葉は栗原宏理事長（栗原建工社長）、神奈川は岸部直喜理事長（岸本建設工業社長）、石井二三夫副理事長（石井鉄工所社長）らが参加。今後の活動方針について年1回、1都2県の理事長らが参集し、ネットワークを活用した運営

を図ることで意見が一致。適時、テーマを設けて情報交換や交流を推進していく。また、昨年調印した「大規模災害発生時における相互支援協定」への取り組みを各県組合事務局長が説明した。

※ ※

● 9月25日、東京鉄構工業協同組合会議室で会合を開き、東京から飯田歳樹理事長と吉岡晋吾副理事長、千葉は栗原宏理事長（栗原建工社長）、神奈川は岸部直喜理事長（岸本建設工業社

長）、石井二三夫副理事長（石井鉄工所社長）のほか、各県鉄構組合の事務局長が参加。

関東支部運営委員会の鉄骨生産高調査結果について、工場規模、人材雇用などを含めた地方ファブとの競争、現在の市況、相場形成の実態など幅広いテーマで意見を交換した。また、大規模災害発生時における相互支援協定への取り組みと運営方針について協議し、支援・防災体制の整備を急ぐことにした。

あーあ日本は平和かな



理事

坂爪 幸男

お隣の韓国は大変だ。

朴槿恵大統領は窮地に陥っている、いや窮地どころか再生不能といってもよいかもしれない。

大統領の支持率が5%やら4%という状態に落ちている。

どうやら友人の国政介入問題や、14年4月の旅客船セウォル号沈没事故当時の、「空白の7時間」等いろいろの問題があるようで連日大変な状況になっているようだ。

自分自身はというと毎日仕事に追われ、納期だ、支払いだという事で胃が痛くなり、不眠にも悩まされる(こんなちっぽけなことなのに・・・)。

でも朴さんはすごい何気なく退陣表明はしたけれど、頑張っているようにも見える、どんな心臓、胃袋をしているのか?感嘆してしまいます。

ところで、日本に目を向けてみると、少し面白い(12月3日現在)。

カジノ法案が12月6日衆議院を通過しそうです、日本を観光立国として立ち上げ、IRというもので、経済発展を底上げしていこうという事でしょうか(アベノミクスも少し苦しくなってきたのかな?)。

IRとはカジノ、レクリエーショ

ン、宿泊施設、国際会議場などの統合型リゾート施設という事らしい

お金を回そう、お金を回し経済を回そうという事でしょう、カジノで回りすぎ、自分自身が振り回されないように願いたいものです。(ギャンブル依存症が少し心配です)

この様な話が出てくる日本は平和かな? (坂爪建鉄工業社長)

17年を迎えて



理事

角鹿 勝保

昨年も多くの出来事がありました。世界情勢的にはイギリスのEU離脱やトランプ次期アメリカ大統領の誕生あたりが、大きな話題でしょうか。特に大統領選以降の円安傾向で、日本経済に与えた影響も大きいようです。

ただ、国内ではやはり熊本地震の発生が印象に残っています。地震のないといわれた地区で発生した大震災に、日常の業務にあっても、常に気構えと備えが必要だと痛感しました。

わが社も工場建屋や設備などが老朽化しており、仮に東京で大地震があれば、無事では済まないだろうと思います。とりあえず、地震への備えの一環として、倉庫として使用している現寸場にあるガラクタをずいぶん処分しましたが、気やすめでしょうか。

さて、去年は仕事が忙しく、落ち着かない一年となりました。なかでも図面などの遅れが工事に影響したにもかかわらず、納期はそのままなので、短納期に対応しなければならぬ忙しさがありました。効率が悪く、収益につながらないどころか、圧迫するため頭の痛い問題です。ともあれ、仕事量があることにこしたことはないので、総じて良い一年だったと思います。

今年から東京五輪を控え、いよいよ競技施設や関連工事が本格的に動きそうです。わが社がスタジオなどの架台や金物を始めたのが長野オリンピックの頃で、当時は放送関係の仕事が多く出たのを覚えています。

今回も放送関連施設の建て替えや設備更新などがすでに出始めており、東京五輪開催ごろまで、需要は堅調に推移するものと期待しています。

今年も忙しい一年を過ごして、業界の仲間とともに、良い年になるよう祈念しています。(角鹿鉄工専務)

海外企業研修制度について



理事

森 芳恒

最近、当社の抱えている問題に人材不足があります。求人媒体を使えば大きな費用がかかり、ハローワークの企業説明会などにも積極的に私自身参加

東京鉄構3団体研修旅行

中国木材で材木や集合材を学ぶ

都内に拠点を置く東京鉄構工業協同組合と鉄工建設業協同組合(理事長=國谷七三夫・國谷製作所社長、略称=鉄工建)、東京足立鉄骨工業会(会長=

角鹿勝保・角鹿鉄工専務、略称=東足会)の鉄構関連3団体は6月12、13の両日、各会員約30名を集め、「東京鉄構3団体研修旅行」を開催した。

今回は鉄工建が幹事を務め、12日は栃木県佐野市の第一酒造を見学し、福島県石川郡の母畑温泉・八幡屋で懇親会を開いた。翌日は茨城県神栖市の中

国木材鹿島工場で研修会を実施した。



して企業アピールをしても経験者はもちろん未経験者も十分な応募がないのが現状です。何より、応募者が就職に対する意欲が希薄で少しでも楽で給料の高い仕事を探しているといった感じが強く受け取れます。何とかこんな状況を打開したいと考えていたところ、海外研修の企業実習生の誘いを受けました。過去、当社でも海外実習生を受け入れたものの制度そのものや受け入れ体制も確立されていなかったこともあり、実習生が満足に3年の研修期間を迎えることなく、逃亡してしまい、各社手を引いてしまったのが現状でした。そんな過去の経験から話半分にと思い海外実習生の派遣機関の説明を聞いてみました。すると、現在は過去の苦い経験をもとに制度そのものも細分化され現地へ出向いて面接や実技試験も行います、との説明を受け、とりあえず応募者にあってみようと思い、昨年7月にベトナムはハノイに出かけていきました。

朝9時に面接会場であるハノイ工科大学へ行くと8人の面接希望者がきちんと整列して待っていました。はっきり言って溶接の技術は全然ダメです、しかし、最近、日本で面接をしていても感じられない、全員が3年間はしっかりと日本へ行って収入を得たいという気持ちが強く感じられ、2名を採用しました。さらに、ハノイ滞在中に他

の企業の面接にも参加させてもらったのですが、ベトナム人留学生を継続的に毎年受け入れ企業としても大変収益を上げている業種(型枠大工、左官、鉄骨葺)が多々あることも知りました。当社もぜひ、今回の採用を再出発として社内に実習生が1期2期3期と継続させることにより社内に活気が生まれ現在の当社で働く仲間も、日本での採用にも彼らの熱い眼差しが貢献してくれるのではないかと感じています。(日本鉄構建設工業社長)



空を飛ぶがごとく



理事代理

村木 晃次

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年はスポーツ面において第31回夏のオリンピックとなるリオデジャネイロで金メダル12個、銀メダル8個、銅メダル21個と2012年のロンドンオリンピックを抜き、過去最多の41個のメダル獲得となり日本中が熱気にあふれました。

また、政治経済面では6月には英国が国民投票を受け、1973年のEC参加以来43年ぶりにEU離脱を表明し、キャメロン首相が辞任に追い込まれ日本の日経平均株価も一時的にはありますが1200円も下げました。11月のアメリカ大統領選では8年ぶりに民主党から共和党へと政権が変わりドナルド・トランプ氏が正式に1月20日第45代大統領に就任いたします。

隣国韓国では、朴大統領の不信からソウルで連日大規模なデモがおこるなど世界がより近く感じる年でありました。

今年は、酉年です。鳥は、約1万種であり四肢動物の中で最も種類豊富だそうです。また、やはり特徴は何といっても空を飛ぶことができます。(鳥の目をもって)高いところから全体像を把握し、時には(虫の目をもって)狭く深く追求し、(魚の目をもって)業界にとっても一昨年よりつづく飛ぶ鳥を落とすようなよい流れののって前向きに、そして堅実に今年も1つ年を重ねる事ができればと感じています。

管理技術者試験準備講習会

16年は1月と10月の2回開催
受講者計1級183名、2級149名

16年は1月と10月に、東京都千代田区の連合会館で鉄骨製作管理技術者試験準備講習会を開催した。特に1月の講習会では、16年度に限った特例措置として本試験が16年2月6日に東京と大阪の2会場で2回目となる試験が実施されることを受け、事前講習として開催したもの。

1月の講習会では関東甲信越の鉄鋼ファブを中心に1級72名、2級53名が受講。また、10月は同じく関東・甲信越の鉄構ファブを中心に鉄骨製作管理技術者1級111名、同2級に96名が参加、合計で1級が183名、2級は149名が受講した。

講師はいずれも鉄骨製作管理技術者1級が羽石良一氏(建築鉄骨構造技術支援協会常務理事)、同2級は大塚英郎氏(大林組東京本店建築事業部品質管理部鉄骨品質管理課課長)が担当し、

テキストとOHPを使用しながら建築法規一般、鉄骨構造、品質管理、鉄骨加工、安全管理など試験問題の概要や要点などを解説、模擬試験も実施した。



甚だ簡単ではございますが、皆様にとってより良い年になるよう心より祈りまして私からの挨拶とさせていただきます。(アイ・テック)

「技術立国」から「技術大国」へ



監事

中込 千秋

最近の新聞記事のなかに日本を代表する大学の東大や京大での科学論文、その他の技術発表が世界で、かつての上位クラスから大幅にダウンし、また、アジアのなかでも東大がベストテンの中程に入る程度のこと。また、かつてはトップを争っていたスーパー・コンピュータでもやっとベストテンに入る程度だ。民進党の代表が以前、政権時の担当者として「目指すのは世界

一ではなくて世界第二でもよいのではないでしょうか」と言ったことがあるが、世界一を目指して人材と開発費を投入してこそ、結果的に世界第二位とか世界第三位になれるのだ。

石油、石炭、鉄鉱石などありとあらゆる資源を外国に頼り、食糧でさえ自給率40%未満、強いていえば明治以来からの義務教育に代表される知的資源の蓄積だけだと言っても過言ではない。少子高齢化は年々加速される。高度の先端技術に裏付けられた産業製品こそが技術輸出・製品輸出で外貨を稼ぐことが、日本が世界でも通用できる道であると思われる。

文学や芸能も結構だが、官民あげて最先端の技術、またそれに裏付けられた製品づくり、物づくりを目指すべきである。理科系教育の充実に向けて人材を育成し、若い人がこの分野に進むことが本人にとって大きなプラスであるような官民あげての施策が求められる。また、せっかく育てた有能な科学

者が頭脳流出と称して海外に行ってしまうたり、また、有能な技術者が中国や韓国企業にヘッドハンティングされたり、している。

私なりにあえて言うならば先般、理研の小保方さんの論文に盗用やねつ造があったとのことで、結局、本人も居場所がなくなり理研を去ってしまった。「百家争鳴・喧々沓々」しながらも建設的にまとめあげる社会的な風土も必要ではなからうか。また、最近の新聞記事に小学生の理科の学力水準が世界でもトップクラスに入ったという明るい話題もあった。最先端の技術に裏付けられた世界をリードする製品づくり・物づくりの「技術大国」の日本の生きていく道であると思う。

当社でもこの円安基調の反映か、工場の耐震補強の引き合いも多い。積極的に受注し、客先から喜ばれる製品づくりを心掛けている。物づくりは最後は工場から生み出されるから。

(中込工業所社長)

東構協・青年経営者委員会

(幹事長=松田一朗・松田鋼業専務)

(会員数 19 社)

●定例会で総会日程などを協議

5月16日、東京都中央区の組合会議室で定例会合を開き、今後の事業計画について協議。このうち16年通常総会の開催日は16年7月29日に決定し、併せて総会後に行う講習会のテーマも話し合った。

講習会のテーマを巡っては「企業防災」と「会社経営」の2案が出され、「会社経営」に決めた。大塚商会が経営支援サービスの一環として提供する中小企業診断士による経営セミナーを受講する。講習会会場には大塚商会本社ビル(千代田区飯田橋)のセミナールームを借りることから、同日の通常総会も同所で開催することとした。

このほか、全青会関東ブロックで今

年2月に実施する研修会のテーマについて検討した。今年度は東構協青経委が同研修会の企画・運営を担当するため。各委員から意見を聴取した後、①「企業防災のプロによる事業継続計画(BCP)の策定に関する講習会」②「そなエリア東京(江東区有明)での防災体験学習」③「中小企業診断士による経営セミナー」の3案に絞った。

また、同研修会の企画・運営を推進する上で専属の担当が必要とし、金本貴範委員(日伸鉄工建設常務)を任命した。



●総会「若い世代の入会を促す」

7月15日、東京都内で通常総会を開催。副幹事長の一人が任期途中で退任したことを受け、新たな副幹事長に金本貴範・日伸鉄工建設常務を選任した。

松田幹事長はあいさつで、「東京五輪の開催決定から約3年経過したが、鉄骨需要は当初の期待ほどには伸びず、仕事が出てきても月によって受注量の山谷の落差が大きいなど経営者にとっては見通しが立ちにくい難しい環境が続いている。こうしたなか、東構協青経委では、会員各社が横のつながりを生かして仕事を融通し合い、気軽に情報交換のできる場を提供することで、有益な活動を展開しているものと考えている。近年、構成員の年齢層が高くなってきており、その対策が課題。会の活動を一層活性化させるため、若い世代の入会を促したい」と述べた。

東構塾で若手組合員の育成や技術を伝承 第6期開講、失敗回避へ管理・製作上の要点がテーマ



松田一朗・青年経営者委員会幹事長



第6期塾長・古藤凱生氏

東京鉄構工業協同組合青年経営者委員会が主催する東構塾が昨秋から再スタートを切り、第6期を開講した。今期から新塾長に古藤凱生氏（元那須ストラクチャー工業専務）が就任、塾長補佐として青野弘毅氏（元那須ストラクチャー工業）もオブザーバー参加し、失敗しない鉄骨製作をテーマに過去の経験に学んだ工程ごとの留意すべき管理・製作上のポイントを解説する。

松田幹事長は主催者を代表して「東構塾は、建築鉄骨業界の次代を担う若手経営者、管理責任者の研鑽の場として極めて有意義な事業であると自負している」と述べ、東京以外にも近県のファブに広く参加を呼びかけており、東京をはじめ群馬、長野、茨城のファブから15名の受講者が集まった。

第6期からは東構協の青経委が運営を担当（第5期までは母体の東構協が運営）する。2年間で全12回、偶数月に開講予定。古藤塾長の講義では自作の『鉄骨の「こうすれば良かった」全17章』をテキストに使い、工場の安全、積算と営業、鋼材の発注、作図、原寸、資材の受け入れ、野書き、一次加工（切断・孔明け）、一次加工（開先）、組み立て、溶接、矯正・仕上げ、塗装、最終確認・発送、運搬、現場作業の各工程について失敗しないためのコツを伝授する考えだ。さらに、初の試みとして東構塾が開かれぬ奇数月に古藤塾長による「鉄骨相談室」を行うことも計画している。

第6期で再び塾長を務めることになった古藤塾長は開講のあいさつで、「50年の鉄骨人生において関わった工事は数知れずあり、鉄骨製作や現場施工をめぐる失敗談は多い。それらの反省を踏まえ、鉄骨製作・施工で失敗しないためのポイントを自分なりに考え、『あの時こうすれば良かった』（全17章）に取りまとめた。今後、この

レジュメに沿って講義を進め、過去の経験から学んだことを塾生の皆さんに伝えたい」と後進育成にかける思いを語る。

「東構塾」は、東構協が若手組合員の育成や技術の伝承を目的に05年5月に1期2年でスタート。第2期以降、他県の鉄構組合にも入塾希望者を募り、これまでに神奈川、群馬、長野、山梨から参加者を得ている。歴代塾長には今期塾長の古藤氏（第1期、第2期）、元東構協事務局長の宇留野清氏（第3期前期）、建築鉄骨構造技術支援協会常務理事の羽石良一氏（第3期後期、第4期、第5期）を迎え、「建築鉄骨の実際知識」、「会計・財務の仕組み」、「JASS6などの技術図書を読み解く」をテーマに取り上げてきた。

期末には国内外の研修旅行、ファブやメーカーの工場見学も実施している。また、ファブの現役経営者、構造設計者、ゼネコン・鉄鋼メーカー・業界団体の関係者、業界内外の有識者など多彩な顔触れをゲスト講師に招き、彼らが語る関係各方面の旬の話題や、仕事にける思い、実務上の心得、これまでの苦心談などをめぐる講話も東構塾の魅力の一つだ。

JFEの複合実験施設を見学 第5期8回目講義

「東構塾」（5期塾長＝羽石良一・建築鉄骨構造技術支援協会常務理事）は7月8日、第5期第8回目の講習としてJFEスチール東日本製鉄所京浜地区（川崎市川崎区）の鋼構造材料ソリューションセンター「THINK SMART」の見学会を実施。塾生ら16名が参加し、JFEグループが研究・

商品化を進める鋼構造用鋼材の先端的な利用・加工技術にふれた。

一行が最初に見学した材料加工棟には主に建築鉄骨用の鋼材が製品特徴を説明するパネルとともに展示されている。また、特殊なワイヤを用いる高能率溶接施工が紹介されており、従来の溶接法とのコスト比較やロボット溶接時の留意事項などについて質問した。

続いて、鋼構造試験棟で3MN構造物試験機や引張試験機を、薄板建材試

験棟で住宅向け鉄骨プレカット工法、意匠鋼板を用いた各種金属屋根材やボルトレスタイプの折板屋根材などを見て回った。見学後、商品PRを受けたほか、羽石塾長の講話を聴いた。



理事役員会報告

◆1月理事会◆

□1月19日、於・アルカディア市ヶ谷□
理事会で全構協関連として「鉄骨製作規準等遵守徹底のお願い」、「原価管理実践講習会」などを報告。原価管理実践講習会で講師2名を選定することになっており、吉岡晋吾副理事長（吉岡工業社長）に人選を一任した。また、23日に千代田区の連合会館で開催する「鉄骨製作管理技術者事前講習会」の受験申込者を確認。2月期理事会は出張理事会とし、開催場所を箱根湯本温泉「あうら橋」に決定、当日はMグレード部会も併催することにした。
終了後、同所で組合員、来賓、協会関係者ら計60名を集めて新年賀詞交歓会が開催された。

◆2月理事会◆

□2月20日、於・箱根湯本「あうら橋」□
来年度は役員改選期となるため、次期役員体制について協議。飯田理事長の続投を決定したが、理事役員のほか、各委員会および部会などの担当は次回3月期の理事会で調整し、最終的には5月24日開催の第30回総会に上程することにした。また、鉄工建設業協同組合や東京足立鉄骨工業会など都内の鉄構団体について飯田理事長は、仕事の協力体制や連携の意味合いからも名簿の作成を提案した。継続審議として取り組むことになった。
報告事項では、全構協関連で原価管理実践講師養成講座に池田和隆（池田鉄工社長）と松田一郎（松田鋼業専務）の両氏の派遣を決定。また、全国Mグレード部会連絡協議会および全国R・Jグレード部会連絡会の総会参加者についても承認。委員会報告では、共済活動を推進するため、共済事業委員長の池田英敏相談役が協力会会長と協議することにした。

◆3月理事会◆

□3月20日、於・組合会議室□
来年度の役員改選期に、次期役員体制を協議。すでに飯田理事長の続投を決めているが、当日は副理事長のほか、新理事5名を含む理事役員を内定。これまで地域別に「東・中・西」の3地区としてきたが、中地区の廃止を決定、東・西2地区長のほか、部会長や委員長の担当を承認した。さらに副理事長の選出について定款の変更を行い、「3人体制」とした。最終的には5月24日開催の第30回通常総会で正式に決定する。通常総会では、併催行事として「原価管理実践講習会」を行う予定で調整する運びとなった。
また、都内の鉄構団体との名簿作成も担当者として吉岡晋吾副理事長（吉岡工業社長）、金本貴典氏（日伸鉄工建設専務）を選任とした。

◆4月理事会◆

□4月21日、於・組合会議室□
理事会開催前に全構協が制作した求人対策用DVD「鉄骨ガールと工場見学」を放映し学校など関係先への配布を承認。また、組合員の若手技術・技能者育成を主体に鉄骨製作技術の継承や技量の底上げを図る目的で開校した『東構塾』の運営を青年経営者委員会（幹事長＝松田一郎・松田鋼業専務）に委嘱することを決めた。
全国Mグレード部会連絡協議会の「固形タブ技量検定」を5月15日に東京都江東区の飯田製作所で35～40名の受験者を集めて実施することを報告。技術委員会を中心に立会い検査員を選定した。また、第30回通常総会で「原価管理実践講習会」の併催を検討していたが、時間の関係などから別の日を設定することにした。

◆5月理事会◆

□5月24日、於・アルカディア市ヶ谷□
理事会では総会・懇親会の進行や役割担当などを最終確認したほか、6月

に実施する鉄工建設業協同組合、東京足立鉄骨工業会など都内の鉄構団体との研修旅行について審議、参加者を決定した。また、「原価管理実践講習会」を東構協会議室で6月末開催をめどに今後、検討・調整していくことにした。
さらに、今年度から組合員相互の交流強化のため、都内3地区（東・中・西地区）を東・西の2地区に再編し、運用を図ることになっているが、これに関連して飯田理事長は組合活動への理解と協力を求めた。



◆6月理事会◆

□6月22日、於・組合会議室□
理事会では各委員会および地区会などの分担を決定、関東支部会運営委員会に武田忠義副理事長（叶産業会長）、総務・広報委員長に池田英敏副理事長（池田鉄工会長）、教育・技術委員長に吉岡晋吾副理事長（吉岡工業社長）共済事業委員会に金谷義昭理事（金谷鉄工所社長）を選任。部会ではMグレード部会長に谷村忠行理事（谷村製作所会長）、R・Jグレード部会長に酒多松浩理事（酒多鉄工所社長）、青年経営者委員会長と東構塾世話人に松田一郎理事（松田鋼業専務）、東地区会長に前田茂昭理事（前田製作所社長）、西地区会長に金谷理事が就任した。
また、地区会の活性化について協議。これまでのトップダウン形式からボトムアップならびにコミュニケーションを重視する方針を示すとともに、各地区長に対して地区会と合同地区会の確実な実施を求めた。
このほか、「原価管理講習会」と東構塾の工場見学会の実施を確認した。

◆ 7月理事会◆

□ 7月 28日、於・組合会議室□

理事会では、組合で入札措置としたデジタル超音波探傷機の結果を報告、落札資金を、地区会活性化を目的とした予算に編成することにした。

さらに第6期の東構塾について、「鉄骨のこうすれば良かった」をテーマに、古藤凱生氏を講師に迎え、全17回2年の予定で実施するとした。

また、審議事項では今後の取り組みを協議。各地区会活性化の方策について、①三役と地区長が各社を訪問し懇親を実施②地区会予算の確保③地区会の実施④協会との共催——を協議し、中・西合同地区会は8月に、東地区会は9月に行うことを決めた。

さらに、飯田理事長が分離発注の推進を提起。問題点と課題、メリットについて説明し、継続審議となった。

◆ 9月理事会◆

□ 9月 15日、於・組合会議室□

理事会では、継続審議の地区会活性化と災害時連絡体制整備を審議した。

災害時連絡体制は、想定外の災害が生じた場合の連絡網を整備するもので「連絡体制表」の作成を決めたが、体制表を地区会開催などの連絡網としても活用することを承認した。また、地区会の活性化に関連して、地区長が理事長、副理事長ら同伴のもと地区会への積極参加、組合活動へのさらなる協力・理解を求めて組合員各社の工場訪問を実施。地区会も、開催日までの余

裕のある案内配布、出席未定者への参加促進、協力会にとってもメリットのある開催内容とすること等を確認。今後、事務局と連携のうえ、運営強化を図って行く。

◆ 10月理事会◆

□ 10月 20日、於・組合会議室□

理事会で組合活動の活性化を目的とする「工場訪問」の実施要領を承認、11月9日から定期的実施していくことを決めた。

工場訪問は、総会や地区会など組合行事の参加率を高めるために理事らが全組合員を対象に定期的に工場を訪問、交流や情報交換を通じて、組合活動の理解と協力を図ろうとするもの。理事会では、こうした目的と実施体制を明確にした実施要領を承認、11月9日から西地区の組合員を対象に工場を訪問することを決めた。訪問数は1日あたり3工場を目処とする。今後、全組合員を対象に順次、工場訪問を実施していく。

また、防災連絡網の作成や経営力向上研修会なども審議した。

◆ 11月理事会◆

□ 11月 17日、於・組合会議室□

西地区への「工場訪問」の活動を報告、今後の工場訪問の日程などを取り決めた。

理事会では11月9日に西地区の組合員である山上建設工業（八王子市、山上努社長）、天野鉄工所（日野市、

天野幸則社長）、島崎工業入間工場（福生市、島崎勝生社長）のRグレード3社を訪問したことを報告。

今後、東地区の工場訪問を12月13日実施予定とし、訪問する組合員3社を候補に選定し具体化を図っていく。

また、全国Mグレード部会連絡協議会が11月5日に神奈川県秦野市の神奈川県立西部総合職業技術校で実施した「第7回 固形エンドタブ溶接技能者技量検定試験」の結果と現状について報告した。

さらに17年1月に開催する新年賀詞交歓会の日程と担当、来賓メンバーを決定、当日までにリポート東構協第26号を発行することを決めた。

◆ 12月理事会◆

□ 12月 8日、於・組合会議室□

理事会で、鉄骨製作管理技術者の資格取得支援対策として同2級受験者向けに組合独自による、よりきめ細やかな『特別講習』の実施を決めた。開催時期は準備講習会と本試験の間で、開催場所は組合会議室とし、予算は組合負担で行う。講師の人は選は今後、調整していくとした。

また、工場訪問について、東地区の中込工業所、林鉄工、市川スチールエンジニアリングの3社を訪問する。また、組合活性化に関連して東・西両地区会の来春の開催実施を呼びかけ、「年2回の開催としたい」との意向を示した。さらに部会、委員会についても理事役員との協力と指導力を求めた。

平成 28 年度通常総会開く

飯田理事長再任、執行部の若返り図る

総会の役員改選では、飯田理事長を再選、新副理事長に池田英敏理事・相談役（池田鉄工会長）、新理事に井上景梧（井上鉄工社長）、酒多松浩（酒多鉄工所社長）、角鹿勝保（角鹿鉄

工専務）、松田一朗（松田鋼業専務）、森芳恒（日本鉄構建設工業社長）の5氏を選任、執行部の若返りを図った。

総会は平成28年度事業計画・予算などすべての議案を拍手で可決。副理事長の定数（6人）を3人とする定款の一部改訂を承認した。



「工場訪問」の実施について 組合活動の活性化の推進のために

当組合の理事会では組合員のメリットのある事業活動に主軸を置き、さまざまなテーマについて協議しているが、地域性や各企業の諸事情や方針もあり、全体の把握が困難で、目指す方向が組合員の意向に沿ったものか、その情報伝達を含めて十分な体制づくりが組合運営の基盤との認識を持って意見を交換することが多い。運営上は地区会の位置づけとその活性化が重要となるが、出席率は組合総会やその他の行事と同様に決まったメンバーに留まっているのが実態で、組合員の意見の吸い上げと反映による組合活動の強化には至らないということになる。

今回の「工場訪問」は地区長が理事長、副理事長ら同伴のもと定期的に組合員各社を訪れ、その協力・理解を求めるもの。実施要領を理事会で承認し、11月9日には飯田理事長、池田英敏副理事長（池田鉄工会長）、金谷義昭理事・西地区長（金谷鉄工所社長）

らが西地区の組合員である山上建設工業、天野鉄工所、島崎工業入間工場の3社を訪問。さらに12月13日には東地区の中込工業所、林鉄工、市川スチールエンジニアリングの3社を飯田理事長、吉岡晋吾副理事長（吉岡工業社長）、前田茂昭理事・東地区長（前田製作所社長）らが訪問した。総会や地区会などの組合行事、活動に関して各社のさまざまな意見や要望などを把握、組合活動に反映していく。

▽飯田歳樹コメント

組合員の工場を6社訪問し、対応して頂いた代表の方々と①組合活動に関する要望②組織の在り方③多くの組合員が参加できる環境作り④組合の将来像⑤当組合の事業や活動等……のテーマでお話を伺いました。以下に訪問した印象を書きとどめたいと思います。

各企業の諸事情があると思われますが、各社ともに得意先の顧客を持って、90%前後の稼働率で仕事をこなしている組合員が数多く見受けられました。また、社長自らが陣頭指揮をと

り、第一線で営業・設計・生産の各部門に携わり、業務をこなしているのが現状であるため、組合活動に参加できる時間的な余裕がなく、自分が抜けて組合活動をしているのは社内が円滑に回らなくなるなどの心配もあるようです。組合としては、多くの組合員の参加を呼び掛け、参加できる環境づくりを目指しておりますが、時間的な拘束がネックになっていると思われます。

一方、仕事量はこなしているが、単価的に妥当であろうか、世間相場より低く契約しているのではないだろうかとかの価格面で不安を持たれている部分があり、他社の動向はどうかなどの情報がほしいように思われました。

ただ、概ね組合の活動事業やその内容にはご理解を得ているとの認識を得ることができました。また、各社とも今後、組合活動への参加を前向きに検討して頂けることのお言葉を頂き、こうした工場訪問を企画して良かったと思います。時間を割いて、対応して頂いた組合員の皆様、同行して頂いた理事役員の皆様に感謝申し上げます。

地区会「西・中地区」統合し、東・西の2地区体制に 活発に情報交換と交流を図る

●9月2日、立川市の立川グランドホテルで組合員や協力会メンバーら計25名を集めて西地区会を開催した。

金谷義昭地区長（金谷鉄工所社長）は「統合後、本日が初めての会合となる。今回を含めて年2回の地区会開催を計画しているが、こうした機会を通じて構成員相互の情報交換や交流を深めてほしい」と強調。小室節夫理事（小室鉄建社長）が組合の現在の活動状況、重点事項や課題などを説明。引き続き飯田歳樹理事長が「組合運営にとっても地区会の位置付けは非常に重要。情報交換も同じエリアで連携を密にする意義は大きい」と地区会の活性化を訴えた。また、分離発注への取り

組みについて「都内の関連団体である鉄工建設業協同組合、東京足立鉄骨工業会などと連携し、実現を目指していきたい」との意向を示した。



西地区会の様子(於・立川グランドホテル)

●11月4日、墨田区の「てんまい」で組合員や協力会メンバーら計25名を集めて東地区会を開催した。

前田茂昭地区長（前田製作所社長）は「地区会の活性化を図るためには、まず組合員が積極的に参加することが大切。意見や情報を交換して東構協、

広くは業界を盛り上げていこう」と組合活動の協力と理解を求めた。

さらに飯田歳樹理事長が「ここにきて見積もり依頼も増加している。引き合いも活発で来年、再来年の案件もある」と好調な鉄骨需要の現状を説明。さらに11月9日から全組合員を対象に正副理事長や地区長らによる工場訪問の実施の背景と意義を述べた後、「こうした活動や本日の地区会などの機会を通じて構成員の意見を吸い上げて理事会で審議、反映していきたい。少しでも業界のプラスになるように頑張りたい」と強調した。

吉岡晋吾副理事長（吉岡工業社長）も「組合運営にとっても地区会の位置付けは大きく、情報交換も同じエリアで連携を密にする意義は大きい」と地区会の活性化を訴えた。

交流・部会事業 を積極的に推進

◆神奈川県で固形エンドタブ試験実施 —Mグレード部会—

全国Mグレード部会連絡協議会（会長＝堀川勝・杉山建設工業専務）は11月5日、「第7回 固形エンドタブ溶接技能者技量検定試験」を神奈川県秦野市の神奈川県立西部総合職業技術校で実施した。同協議会に加盟する東京、千葉、神奈川、群馬の組合員企業から新規8名、更新14名の計22名が受験。同試験は新規受験者を対象とした座学と、新規・更新共通の実技試験の2部構成。当日は、幹事役を務めた神奈川県鉄構業協同組合の石井二三夫Mグレード部会長（石井鉄工所社長）が司会進行を行い、同組合と東

京鉄構工業協同組合の理事ら6名が立会人を担当した。

同検定試験は東京鉄構工業協同組合が独自に実施していた「代替エンドタブ技能検定試験」を継承、発展させたもの。Mグレード以下が手がける工事規模を想定し、固形エンドタブによる施工で板厚40mm未満の母材溶接に適用される技能資格の普及を目的とする。全国M部会主催の検定試験は今回で7回目となる。

◆全国R・Jグレード部会連絡会に参加 —「Eーディフェンス」を見学—

全国R・Jグレード部会連絡会（会長＝松枝建次・松枝興業社長）は10月7日、兵庫県三木市にある世界最大級の実大三次元振動破壊実験施設「兵庫耐震工学研究センター（通称＝Eーディフェンス）」を訪れた。これは、

同会が年に1回、先進的な同業および異業種の工場や建築鉄骨に関わるすべての関連施設、実験棟などを見学し、多くのことを学ぶため開催されているもの。当日は東構協のR・J部会員を含む会員18名が参加した。

一行は、計測制御棟で施設の概要説明を受けたあと、長周期地震動が建築物および内部に与える影響の実験や鉄骨完全崩壊再現試験で使用され損傷した柱脚、実験棟や試験後の建築物実験体、振動台の動力源であるアキュムレータユニットや油圧ポンプユニットがある油圧源棟を見学した。



地区会員名簿

東地区 (26社) 地区長 (株)前田製作所 前田 茂昭

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	川岸工業 株式会社	H	10	株式会社 中川鐵工所	M	19	三進建鉄 有限会社	R
2	叶産業 株式会社	H	11	中央鋼材 株式会社	M	20	株式会社 コイワ	R
3	株式会社 アイ・テック	H	12	株式会社 日伸鉄工建設	M	21	株式会社 小久保鉄工	R
4	株式会社 飯田製作所	M	13	中央ビルト工業 株式会社	R	22	株式会社 長谷川工業	R
5	株式会社 前田製作所	M	14	鈴木鉄工建設 株式会社	R	23	株式会社 矢萩鉄工	未
6	吉岡工業 株式会社	M	15	林鉄工 株式会社	R	24	株式会社 奥村鉄構	未
7	株式会社 中込工業所	M	16	有限会社 高市工業	R	25	有限会社 幸栄工業	未
8	株式会社 谷村製作所	M	17	株式会社 角鹿鉄工	R	26	津覇車両 株式会社	未
9	富士工業 株式会社	M	18	株式会社 市川スチールエンジニアリング	R			

西地区 (24社) 地区長 (有)金谷鉄工所 金谷 義昭

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	株式会社 矢嶋	H	9	井戸鉄建 株式会社	M	17	株式会社 酒多鉄工所	R
2	東京建鉄 株式会社	H	10	株式会社 かしや建設工業	M	18	島崎工業 株式会社	R
3	松田鋼業 株式会社	M	11	株式会社 三侑鉄工	M	19	有限会社 天野鉄工所	R
4	池田鉄工 株式会社	M	12	有限会社 坂爪建鉄工業	M	20	有限会社 山上建設工業	R
5	日本鉄構建設工業 株式会社	M	13	有限会社 金谷鉄工所	M	21	有限会社 修和鉄工	R
6	小島工業 株式会社	M	14	株式会社 小室鉄建	M	22	有限会社 石川鉄工	R
7	株式会社 鎌建工業	M	15	株式会社 ヤマトミ	M	23	株式会社 帝都建工	未
8	井上鉄工 株式会社	M	16	株式会社 一本木鉄工	R	24	有限会社 大橋鉄工所	未

東京鉄構工業協同組合協力会員名簿

役職	会社名	〒	住所	TEL	FAX	代表者 担当者	役職	業種・取扱商品
				E-mail				
会長	大日本塗料(株) 東京営業所	144-0052	東京都大田区蒲田5-13-23 TOKYU REIT蒲田ビル8F	03-5710-4501	03-5710-4520	真鍋 育功	所長	全構協指定塗料
				nemoto-taka@star.dnt.co.jp		根本 隆史	主任	錆止め塗料
副会長	富士見興業(株)	166-0003	東京都杉並区高円寺南1-27-11	03-3314-1430	03-3314-5818	石塚 勲	代表取締役	高圧ガス、溶接材料
				honbu@fujimikougyo.co.jp		蒲生 紘一郎		機械、工具
幹事	(株)アマダマシンツール	224-0025	神奈川県横浜市都筑区 早瀬1-28-18	045-594-1923	045-591-9460	橋本 文夫	東日本7'077'077長	パント・ソー用プレート*
幹事	大同生命保険(株) 首都圏地区営業本部	103-0023	東京都中央区日本橋2-7-1 NOF日本橋本町ビル6F	03-3667-8021	03-3667-8022	大橋 伸夫	営業推進部長	生命保険 共済保険
幹事	中村鉄興(株)	359-1164	埼玉県所沢市三ヶ島1-478	04-2948-0610	04-2949-2209	中村 弘田郎	代表取締役	切り板
				ntk@viola.ocn.ne.jp		中村 弘美	常務取締役	孔あけ
幹事	有修溶工(株)	273-0018	千葉県船橋市栄町2-6-7 東京ブリック(株)船橋機材センター内	047-433-2301	047-410-0575	浪花 俊勝	代表取締役	スタッド溶接工事
				stud@yu-shu.co.jp		滝沢 健一	工務部次長	材料販売
会計	野村産業(株)	206-0812	東京都稲城市矢野口786-1	042-377-6352	042-378-0655	野村 宗孝	取締役	高圧ガス、溶材機器
				noc-t@nomura-s.co.jp		小杉 勝	所長	ハイテンションボルト
監査	ダイニツカ(株) 東京支店	104-0032	東京都中央区八丁堀1-9-5	03-3552-3163	03-3552-3162	山梨 克之	支店長	全構協指定塗料 錆止め塗料
	加研工業(株)	136-0071	東京都江東区亀戸5-23-6	03-3684-8031	03-3684-8042	高橋 亨	代表取締役	研削砥石製造販売
	サンコーテクノ(株) 南流山事業所	270-0163	千葉県流山市南流山3-10-7	04-7157-7735	04-7157-8835	小西 隆夫	本部長	建築金物製造販売
				t.konishi@sanko-techno.co.jp		中村 正孝	係長	
	(株)星和	121-0052	東京都足立区六木2-6-27	03-3605-0817	03-3605-3521	星野 傳弘	代表取締役	鋼材、建築資材
				seiwa@seiwa-web.net		北嶋 重司	専務取締役	ボルト、ナット、仮設機材
	大陽日酸がま&カクイン(株) 八王子支店	192-0032	東京都八王子市石川町2973-3	0426-31-3801	0426-31-3808	乗川 秀嗣	支店長	高圧ガス
				naoki.miyasaka@tn-sanso.co.jp		増田 翼		
	東京電気通信(株)	162-0065	東京都新宿区住吉1-19 サトウ曙橋ビル	03-3356-9071	03-3356-9354	遠藤 裕二	代表取締役	情報通信システム
				okabe@tokyo-dt.com		岡部 直樹	課長	NTTコム代理店
	所沢資材(株)	359-0032	埼玉県所沢市若松町852	04-2992-0231	04-2998-0570	小高 進一	課長	ベアスバック
				tokoshi-odaka@sand.ocn.ne.jp		佐藤 庄悟		ハイベアス
	フルサト工業(株) 神奈川営業所	242-0025	神奈川県大和市代官3-1-2	046-267-5424	046-268-1051	宇佐美 雅章	所長	鉄骨副資材 ボルト
	(株)丸和	279-0025	千葉県浦安市鉄鋼通り2-6-8	047-304-0811	047-304-0819	中畑 充弘	代表取締役	鋼鋼板専門
				maruwa.mpc@checkerplate.co.jp		阿部 孝典	課長	鋼板加工
	美鈴印刷紙工(株)	135-0033	東京都江東区深川2-24-11	03-3643-4485	03-3642-3265	飯島 隆典	代表取締役	印刷・原寸用フィルム
				misuz-film-1@tokyo.email.ne.jp		佐藤 智輝	営業課長	製造販売

編集後記

昨年の11月、42年ぶりにベトナムのサイゴン（現在ホーチミン市）へ行ってきました。

娘が大学時代のベトナム人留学生の友人に会うための訪問に同行しました。私が初めてベトナムを訪問したのはベトナム戦争の末期でサイゴンが解放（1975年4月30日）される数か月前です。市中では腐敗したアメリカの傀儡政権ゲエン・バンチュー大統領に反発した市民や、アン・クアンチ派の僧侶が街頭に出て抗議活動を行っていました。私はその反政府活動のリーダーであるゲエン・

ゴ・パタン女史に会うためにサイゴンを訪れたのです。

女史は警察軍に自宅監禁されていました。入り口で軍の厳しいチェックを受けましたが直接女史の自宅の居間で面談することができ日本から持参したベトナム戦争に反対するグループのメッセージを直接手渡すことができました。当時の活動や情勢の話聞き、女史にインタビューした録音テープを日本に持ち帰るためにダミーテープを事前に用意して軍の検問をスルーしました。

当時サイゴンは戒厳令が発せられていて夜間是人通や車の通行が止まり大変静かでしたが、周辺まで北ベトナム軍や南ベトナム解放戦線（ベトコン）が展開している時折砲弾の音が響いていました。

それから40年余、ホーチミン市は大きく変わってしまいました。市中心部には超高層ビルが立ち並び、道路には日本製の車やバイクが洪水のように流れていました。ゲエン・ゴ・パタン女史は民主的な平和国家の実現を目指して身を挺して活動しましたが現在のベトナムは、彼女の理想とは大部乖離しているようです。娘のベトナム人の友人が半分あきらめながら「すべて役人のワイロによって物事が動く」と嘆いていました。市場経済社会主義国家「ベトナム社会主義共和国」はかつての「南ベトナム共和国」と同じなのか？しかしベトナム人は戦争の恐怖から解放された現在を楽しんでいる様でした。

（事務局長 加藤哲夫）